

2017年12月期 第1四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社



証券コード : 4572

- CDC7キナーゼ阻害薬に係るメキシコ特許登録（1月）
- エピバイオーム社との共同研究契約締結（1月）
- TNIKキナーゼ阻害薬に係る特許庁（日本）および米国特許商標庁からの特許査定通知受領（2月）
- BTK阻害薬に係る米国特許商標庁からの特許査定通知受領（2月）
- CDC7阻害薬の研究成果に関する学術雑誌「European Journal of Medicinal Chemistry」への掲載（2月）

- ✓売上高、各損益の数値は計画通り進捗
- ✓売上高は、対前年同期比 13.0%減（対前年同期比29百万円減）
- ✓営業損益は、売上が減少したものの、販売費及び一般管理費の減少等により対前年同期比で変動なし
- ✓当期純損益は、前年同期に特別利益(投資有価証券売却益)を計上していたため、対前年同期比では107百万円の悪化

(単位：百万円)

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
2017年12月期第1四半期実績 (a)	196	△113	△113	△118
2016年12月期第1四半期実績 (b)	225	△114	△121	△11
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△29	0	8	△107
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△13.0%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 対前年同期増減率における、「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の値は前期および当期においてそれぞれ損失を計上しているため、数値を表示しておりません。

第1四半期 事業別業績の概況



(単位：百万円)

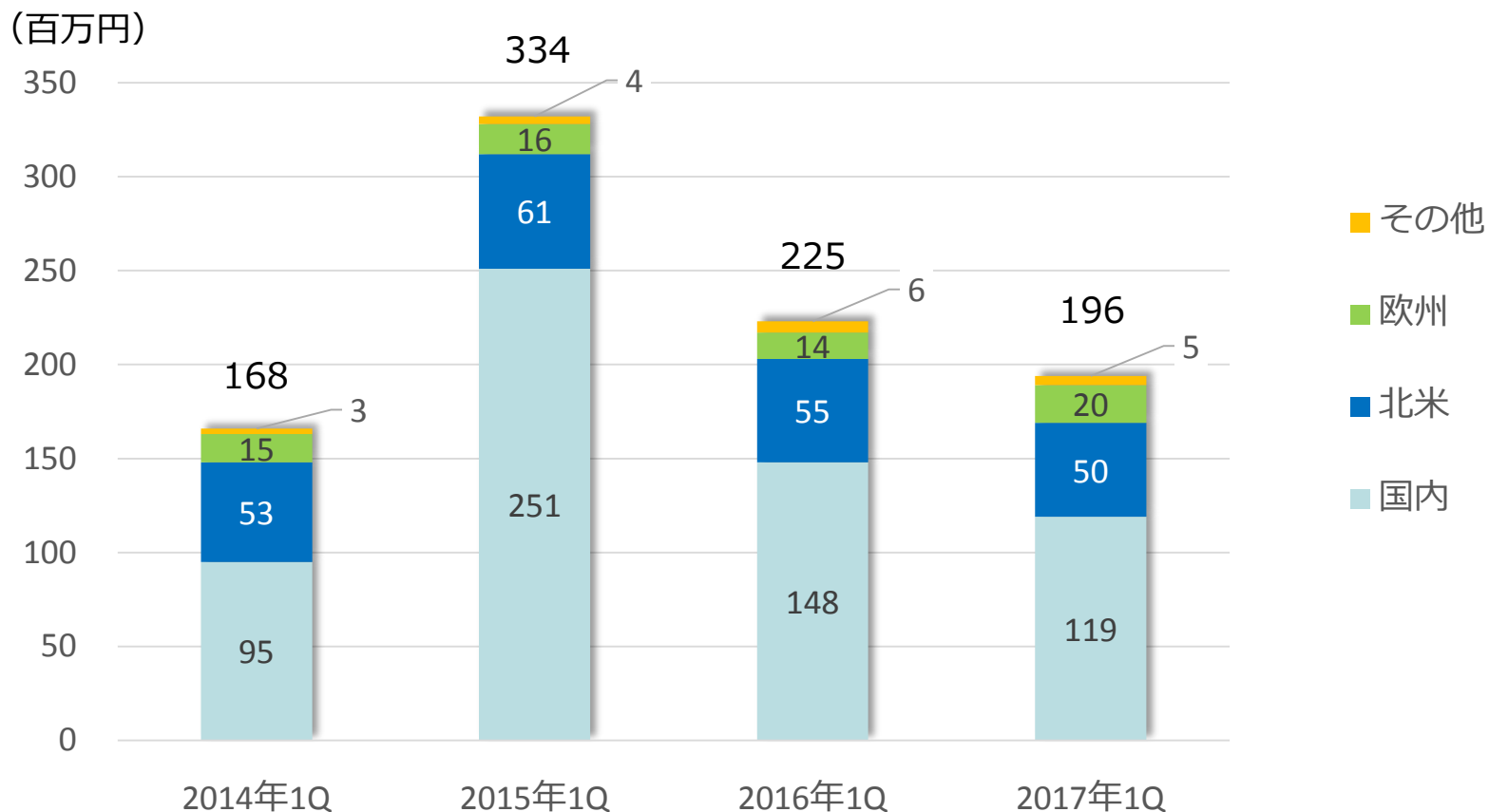
	売上高			営業損益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2017年12月期 第1四半期実績 (a)	196	—	196	63	△177	△113
2016年12月期 第1四半期実績 (b)	225	—	225	76	△190	△114
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	△29	—	△29	△13	+13	0
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	△13.0%	—	△13.0%	△17.2%	—	—
2017年12月期 通期計画 (d)	1,000	440	1,440	443	△403	39
通期計画に対する 進捗率 (a)/(d)	19.6%	0.0%	13.6%	14.3%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 2017年12月期通期計画値は、2017年2月10日発表の通期計画に基づいております。詳細は平成28年12月期決算短信をご参照ください。

(注3) 創薬事業及び全社の営業損益における対前年同期増減率および通期計画に対する進捗率の値は、損失を計上しているためそれぞれ数値を表示しておりません。

創薬支援事業 地域別累計売上高推移 (連結)



(注) 小野薬品工業向け売上高
 2016年1Q … 92百万円
 2017年1Q … 61百万円

バランスシート の 状況 (連結)



(単位：百万円)

	2017年12月期 第1四半期末	2016年12月末	増減額	増減理由
流動資産	2,340	2,492	△151	
現金及び預金	2,035	2,161	△125	
その他	305	331	△26	未収消費税△17、売掛金△9等
固定資産	70	73	△2	
資産合計	2,411	2,566	△154	
流動負債	223	271	△47	未払金△44等
固定負債	506	555	△49	社債△14、長期借入金△35等
負債合計	729	826	△97	
純資産合計	1,681	1,739	△57	利益剰余金△118 資本金及び資本剰余金+63等
負債・純資産合計	2,411	2,566	△154	
自己資本比率	69.5%	67.6%		
一株当たり純資産	180.16円	187.73円		
PBR(株価純資産倍率)	10.59倍	11.32倍		
(参考) 当社株価	1,908円	2,125円		

(注) 当社株価はJASDAQグロースにおける終値に基づいております。

<がん領域>

- Sierra Oncology社へ導出したCDC7阻害薬（SRA141）は、同社により臨床試験開始を目指して開発中。臨床試験が開始されれば当社はマイルストーンとして一時金を受領予定。
- 国立研究開発法人国立がん研究センターとの共同研究テーマであるTNIK阻害薬NCB-0846は、日本医療研究開発機構（AMED）の創薬ブースターで実施した内容の精査を行い、臨床試験開始に必要な追加試験等を実施しており、引き続き早期の臨床試験開始を目指す。バックアップ化合物NCB-0594についても前臨床試験段階へのステージアップを目指し引き続き研究を実施する。
- 広島大学との白血病幹細胞を標的とした共同研究（TGFβシグナル阻害薬）では、引き続きリード化合物の最適化を実施中。

<免疫炎症疾患領域>

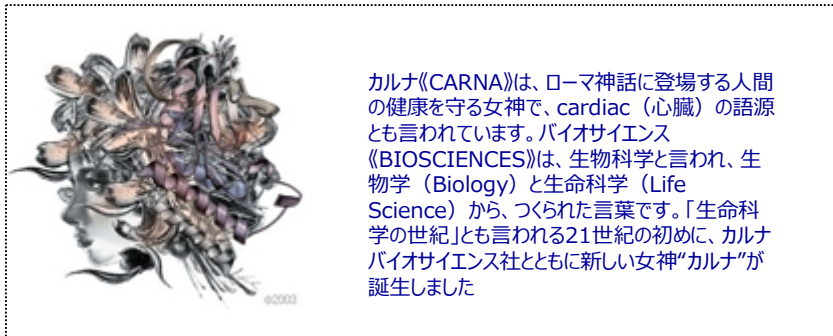
- ヤンセン・バイオテック社より権利が返還された免疫疾患領域の医薬品候補化合物は、当社において引き続き前臨床試験を実施しており、新たな導出に向けた取り組みを行っていく。

<その他の疾患領域>

- 北里大学北里生命科学研究所との共同研究である新規マラリア治療薬の研究は、引き続きリード化合物の最適化を実施中。「A-STEP」の支援事業が終了したことから、この共同研究の成果を実用に近づけるための新たな枠組みを検討中。
- その他の最適化段階にあるテーマに関しても、研究を着実に進め、創薬パイプラインの強化を図る。

- DGK関連では大型案件の受注獲得を目指し、複数企業にコンタクト中。
- 北米地域における売上拡大を図るため、CarnaBio USAの経営体制を変更。
- DGK関連サービスならびにDGKに続く新製品の発売を目指し、準備を進めている。
- 共同研究先のEpiBiome社のサービスを日本で提供すべく準備中。
- DGK関連以外でも北米における大規模契約の締結を目指し、活動を進めている。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。